

フレンドリーわん

あんな活動
こんなところ
みつけた!



「フレンドリーわん」は、高齢者施設で利用者と犬との交流機会を設けたり、市内で犬の散歩をしながらパトロールをしたり、犬と一緒に活動しているボランティア団体です。2018年に設立し、月に1回高齢者施設を訪問しています。実際に犬を飼っている方8名がペットと一緒に活動しています。

今回は、ヒューマン・ケア東大和での活動を見学しました。ヒューマン・ケア東大和は、認知症高齢者を対象としたグループホーム（入居施設）です。今回の活動に参加した利用者は8名で、「フレンドリーわん」からは5名と5匹でした。コロナ禍のため、屋外でフェイスシールドやマスクの着用をして活動されていました。

飼い主から犬の紹介をし、15分程度、実際に触れたり抱っこしたりする時間をとっていました。利用者の方の中には、積極的に名前を呼びながら抱っこする方もいれば、おそるおそる手を伸ばす方もいました。飼い主の方は、参加者が触りやすいように犬を誘導したり、参加者との会話を楽しんだりして、全体的に和やかな雰囲気がありました。

活動後に、ヒューマン・ケア東大和の職員の方にお話を伺うと、「コロナ禍で施設は外部と

のつながりが少なくなってしまった。ボランティアの受け入れも一時は中止していたが、ボランティアを受け入れることで、施設としてもよい風が入っていたのだと改めて感じた。利用者は、認知症により記憶が曖昧な方もいるが、楽しい時間だと感じてもらえればよいと思っている。」とのことでした。

コロナ禍で思うような活動ができない団体も多くあると思いますが、「フレンドリーわん」の活動のように、工夫しながら続けているボランティア活動もたくさんあると思います。ボランティアセンターでは、活動団体の状況把握や活動団体同士の協働など、つながりづくりを今後も行っていきたいと思っています。



【取材を終えて】

「モフモフ触りたい!」「かわいい!」と思いながら、活動を見学させていただきました。動物がもつ魅力って、素晴らしいですね。

さて、「フレンドリーわん」の活動を見学して、コロナ禍でも工夫して活動を継続している背景には、高齢者施設の利用者の笑顔があったのではないかと感じました。ボランティア活動は自主性の活動のため、やめようと思えばいつでもやめられます。それでも続けてきた思いや考えに触れる時間となりました。ありがとうございました。

引き続き、様々な団体の活動や取組を知り、ボランティアセンターとして一緒になにができるのか考えていきたいと思いました。

ボランティア運営委員 渡部 芽生